

# 町内会活動を支える女子会

鹿児島県鹿屋市 鹿屋市川東町女子会

## 背景

鹿児島県の東部、大隅半島のほぼ中央に位置する鹿屋市は、風光明媚で第1次産業を基幹産業とする都市であり、市街地からほど近い川東町内会は、域内の西側を肝属川が流れ、居住地近くに里山や田畑が広がる農村地帯。

地区内の世帯数は413世帯。2021年5月31日現在の高齢化率（人口に対する65歳以上人口の占める割合）は34・1%と鹿屋市全体の29・9%に比べて高い。

昔ながらの男性中心の営みが色濃く残っており、代々続く行事や豊作を願う鉦踊りや八月口説踊などの伝統芸能の継承を重んじる一方、人口減少や少子高齢化による課題等を抱える典型的な過疎地域であり、町内会でも担

い手不足などにより事業を継続することが手一杯であった。

そのような中、よそ者で女性の町内会長が誕生してから川東町内会にこれまでになかった新たな潮流が生まれ、地域が様変わりすることとなっていく。

## 活動の発端

5年程前になるが、会長に就任したころ、昔ながらの男女の役割分担に違和感を持った女性町内会長は、女性だけで自由に語らうことを目的に料理などを一品持ち寄りでの手作りの懇親会を開いた。これが「女子会」の発端となった。

子育てや親の介護が終わり、時間に余裕の



口説き踊り

できた70〜80代の女性たちは驚くほど元気であり、地域愛に溢れ、住み慣れた地域のこと





お楽しみ郷土料理(あくまき)

をよく知っていた。「人生を楽しもう！」を合言葉に、次々に新しいことに挑戦していった。それはあたかも地域への恩返しとなる活動に何の躊躇もなく労力を注ぐことで、これまでの彼女たちの「他者のために使ってきた」時間を取り戻すかのようであり、そして楽しむことに食欲であると同時に地域への底知れぬ情熱と知恵とアイデアに溢れていた。

### 活動の発展

女子会を発足させ、会員の意識が見えてくると、どうも長年住んでいる割には、地域全体のことには疎いことに気が付いた。景観や



クリーン&amp;ウォーキング後の資源物洗浄

歴史、自然、史跡等：に気が付かない。そんな折、メンバーの中から「何かして欲しいことはない？」の声が出た。日頃気になっていた町内道路へのごみのポイ捨て、散乱、誰も片付けず溜まっていくごみのたまり場。禁止の立て札は一向に効果なし。見ているだけでは状況は良くならない。

そこで、町内を散策し自然景観を楽しみ、史跡を見学しながら、ごみも拾う。歩きながら体力づくり、学び、環境衛生もできる。クリーン&ウォーキングを企画実行することにした。参加は自由。継続しなければ効果は出ない。毎週土曜日朝8時から約1時間30分の活動。ごみの多そうなコースを歩くことと



採れた山の幸を囲んでの女子会

なった。そうこうするうちに、今まで気が付かなかった様々な状況が見えるようになってきた。主体的に動けば、新しい発見がある。捨てられたごみの様子から社会状況も知ることができる。まだ利用できるごみもある。空き缶やペットボトル、放置すれば危険物、洗えば資源。回収ごみを分別し、自宅での資源ごみとともにリサイクル業者へ持ち込むこととなった。わずかな売り上げでも実に豊かな気持ちになれる。こうして、行動が次の行動を生むという連鎖が始まった。この流れが、かねてよりの懸案であった人手不足により行き詰っていた荒廃竹林の整備活動の打開策へとつながっていくことになる。

## 具体的な活動内容

- クリーン&ウォーキング…ごみ拾いとウォーキングを兼ねた活動 毎週1回
- 資源物回収、リサイクル活動…回収希望家庭とごみ収集の分別により出た資源をリサイクル
- お楽しみ郷土料理作り…野外にて炊飯作業、火を焚いて行うあくまき作り、米麴、甘酒づくり等
- 町内会花畑の周年管理作業…余剰農産品の植え込み等も行う、ラッキョウ、里芋、ジャガイモ、カボチャ等
- 町内会行事・イベントの盛り上げ隊…祭り、敬老会等裏方及び余興出演、接待など全面



タケノコ収穫

## 協力

- 一品持ち寄りのお茶飲み会、食事会…新年会、忘年会、会員の主人を招き、感謝の懇親会等を実施
- 高齢者施設への慰問…年2回踊りを披露
- 会員以外にも無料食事会の開催…持ち寄り食材にて調理振る舞い(不定期)
- 荒廃竹林の整備活動(竹山は宝の山)
  - ・幼竹の伐採による間伐と、穂先だけのこの収穫、販売…売上の半分を山主に還元
  - ・あくまき用竹皮拾い、利用と販売…持込者に売り上げの半分を還元、高齢者の小遣い稼ぎにもなる
  - ・竹粉末(チップ)、消し炭、竹炭づくり…野菜作りに活用したり、販売したりしている

## まとめ

女性たちの楽しみが地域ビジネスへ

そうこうしているうちに、女子会には約30人のメンバーが集まり、とにかく楽しみながら健康づくり、生きがいづくり、作物づくり、そして時々「お金を稼ぐ」活動資金づくりをしてきた結果、現在では、女子会は町内会活動での原動力の一つとなっている。

とにかく損得勘定なしで自分たちが楽しむために始めた女子会が、この活動を続ける中でメンバーの意識に変化をもたらしてゆき、



集まったメンバーで記念撮影！

誰かのためや地域のためになることに喜びを感じるようになる。そして「他者のことばかりやってきた年代」の女性たちが、自分の好きな活動・できる活動を楽しみながら、至福の充足感を味わい、自己実現を達成しながら地域の活性化に大きく貢献している。

女子会発足当初の料理一品持ち寄りでの懇親会は、いまだに継続され、自由で面白くてお金になる活動のアイデアを絞り出しながら、「会費無し、役員無し、規約無し、やりたくない企画はパスしてもよし」をモットーに、今日も彼女たちは大いに人生を楽しんでいる。

(鹿屋市役所地域活力推進課主査 駒路秀樹)